

特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 二〇一六―一三

特別史跡・特別名勝
鹿苑寺（金閣寺）庭園

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人
京都市埋蔵文化財研究所

特別史跡・特別名勝
鹿苑寺（金閣寺）庭園

2017年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、通路（迂回路）仮設工事に伴う特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

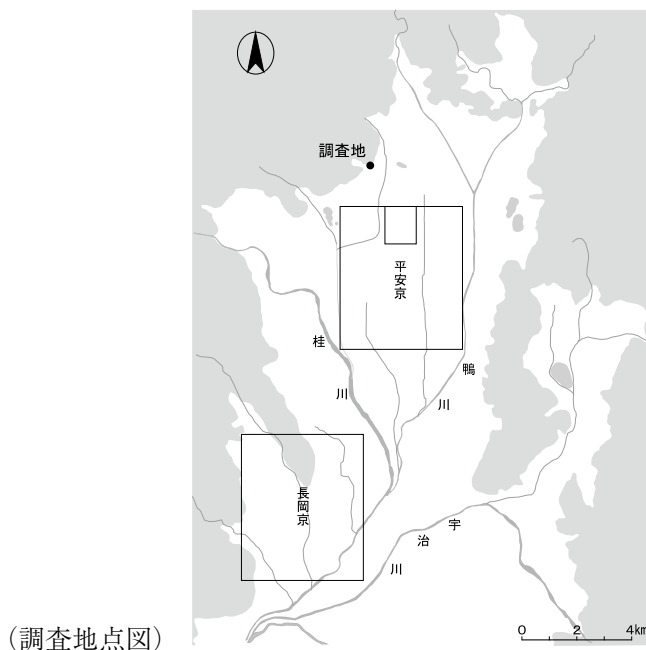
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

平成29年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園
- 2 調査所在地 京都市北区金閣寺町1 鹿苑寺境内
- 3 委 託 者 宗教法人 鹿苑寺 代表役員 有馬頼底
- 4 調査期間 2016年11月1日～2016年11月21日
- 5 調査面積 約37㎡（1区21.7㎡、2区4.8㎡、3区10.5㎡）
- 6 調査担当者 布川豊治
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「原谷」・「衣笠山」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 布川豊治
- 14 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。



目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	1
2. 位置と環境	5
(1) 位置と環境	5
(2) 周辺の調査	5
3. 遺 構	9
(1) 1区	9
(2) 2区	9
(3) 3区	9
4. 遺 物	15
(1) 遺物の概要	15
(2) 土器類	15
5. まとめ	16

図 版 目 次

図版1 遺構	1	1区第1面全景（北東から）
	2	1区被熱面検出状況（東から）
	3	1区第2面全景（北東から）
図版2 遺構	1	2区造成土掘り下げ状況（北西から）
	2	3区被熱面検出状況（北から）
図版3 遺構		3区南壁オルソ写真（1：25）

挿 図 目 次

図1	調査地位置図（1：2,500）	2
図2	調査区配置図（1：500）	3
図3	1区調査前全景（北東から）	4
図4	2区調査前全景（北から）	4
図5	3区調査前全景（北から）	4
図6	作業風景（東から）	4
図7	周辺調査位置図（1：1,500）	6
図8	1区第1面平面図（1：50）	10
図9	1区第2面実測図（1：50）	11
図10	2区実測図（1：50）	12
図11	3区実測図（1：50）	13
図12	出土土器実測図（1：4）	15

表 目 次

表1	周辺調査一覧表	7
表2	遺物概要表	9
表3	遺構概要表	15

特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園

1. 調査経過

（1）調査に至る経緯

本調査は、特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園の現状変更に伴って実施したものである。第1駐車場西隣の参拝者休憩所・便所新築工事に伴い、その南隣の参道を閉鎖する必要が生じた。そのため駐車場からの迂回路が必要となり、南側の方形高まりを通る仮設通路を敷設することになった。その敷設範囲内の調査である。

調査は公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が鹿苑寺（金閣寺）から委託をうけ、京都府教育庁指導部文化財保護課（以下「府保護課」という）と京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下「市保護課」という）の指導のもと実施した。

（2）調査の経過

調査地は、鹿苑寺境内北東部に位置する方形の高まりである。今回、その中に仮設通路を敷設することになった。方形高まりには既設の遊歩道があり、それを外れる仮設通路範囲の工事掘削深まで掘り下げる調査である。調査区の設定は西側から、南西斜面を1区、遊歩道中央に残る高まり部分を2区、東部通路南側を3区とした。

調査は全て人力で掘削を行った。埋め戻しは行わないため、排土は調査区横に仮置きした。器材搬入、測量基準点設置などを終え、掘削を開始した。

1区は表土を掘り下げた直下で被熱層と考えられる被熱面を検出し、この面を第1面とした。その後、被熱面の範囲を避け工事深まで掘り下げて第2面とし、方形高まりの造成土を検出した。

2区は表土と近世層を掘り下げ、造成土を検出した。

3区は既に仮設通路が敷設され、切り通しとなっている。その南側の断面（以下「南壁」という）を現状で実測した。さらに通路南端南壁に沿い、地表面から約1mの深さまで断割を行った。また、南西部において一部、被熱面の検出を行った。図面作成・写真撮影などの記録作業は、調査の進展にあわせて適宜行った。

なお、調査中は府保護課および市保護課の臨検・指導を受けた。最後に1区被熱面を砂土嚢で養生・保存し、器材の整理・搬出を行い、現場作業を終了した。



図1 調査地位置図 (1 : 2,500)

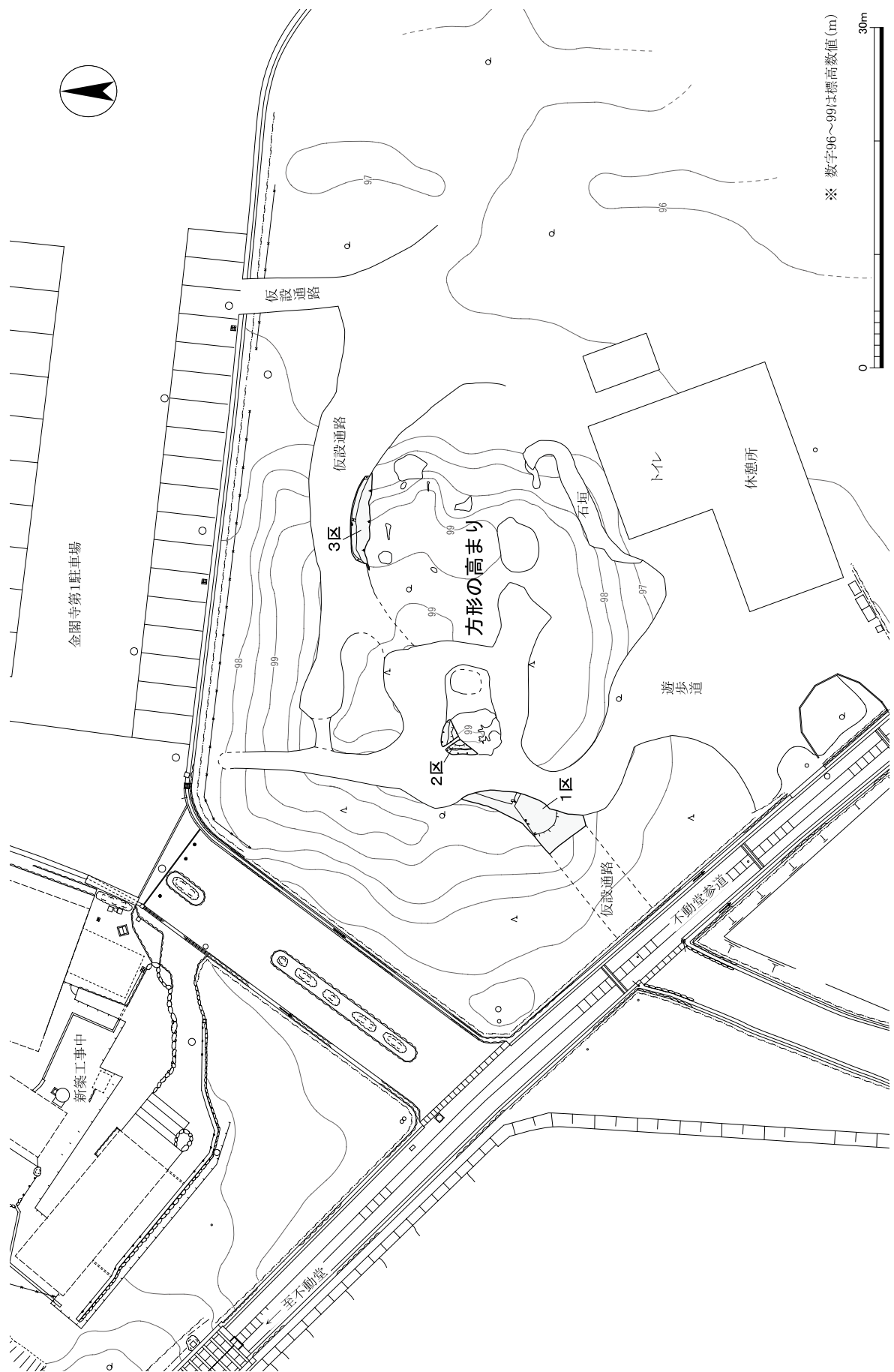


図2 調査区配置図 (1 : 500)



図3 1区調査前全景（北東から）



図4 2区調査前全景（北から）



図5 3区調査前全景（北から）



図6 作業風景（東から）

2. 位置と環境

(1) 位置と環境

調査地一帯は、大正14年(1925)に指定された「特別史跡・特別名勝 鹿苑寺(金閣寺)庭園」である。当地には、元仁元年(1224)西園寺公経により「西園寺」と公経の別業が造営された(足利義満の別業と区別するため、公経の別業を北山第、義満の別業を北山殿とする)。室町時代に入り、足利義満が西園寺家よりこの地を譲り受け、応永4年(1397)、「北山殿」を造営する。北御所、南御所、舍利殿(金閣)、西園寺伝来の堂舎などが引き継がれた。以後約10年は北山殿が政治の中心として機能した。

足利義満及びその夫人日野康子が没すると、1420年頃、夢窓疎石を開山とする義満の菩提を弔う禅宗の鹿苑寺が創建された。堂舎は金閣を中心に仏殿、泉殿、書院などがあったとされる。

これ以後は寺院として中世・近世を通して存続し、応仁・文明の乱では兵火を受けるが、金閣は焼失を免れる。近世では堂舎の再建が進む。近代の昭和25年(1950)、金閣は焼失、昭和30年(1955)再建された。現在は臨済宗相国寺派、北山鹿苑寺、別名「金閣寺」として京都の名所となっている。

調査地は、鹿苑寺境内の北東部に位置し、周囲より約2m高く、一辺が30m前後の正方形に近い方形の高まりである。方形高まりには遊歩道があり、頂部では深さ約0.8m掘り込まれている。遊歩道以外の頂部には平坦面が部分的に残されている。

(2) 周辺の調査(図7、表1)

金閣寺境内では、過去に数多くの発掘調査が実施され、本調査で16次に及ぶ。主なものとしては、京都市埋蔵文化財研究所調査報告第15冊(文献6)と京都市埋蔵文化財研究所調査報告2015-9(文献13)が刊行されている。本報告では直近の京都市埋蔵文化財研究所調査報告2015-9に掲載されたものに基づき、加筆・調整を行い、周辺調査位置図(図7)と周辺調査一覧表(表1)を掲載した。

今回の調査地に隣接する調査としては、3次(W3~5区)、12次、13次、14次調査がある。3次調査では平安時代の遺構と、その上に池状遺構などを検出した。W4区の東半では、その池は多量の室町時代の瓦で埋められていた。方形高まりの北西隣では12次調査4~8区と14次調査、方形高まり南隣は12次調査1~3区と13次調査が行われている。北西隣12次調査では室町時代の井戸・焼土面などを検出し、鎌倉・室町時代の土器と瓦などが出土した。14次調査では平安時代の土坑群、鎌倉時代の基壇状高まり、室町時代の池・瓦窯などを検出し、平安時代の土器、鎌倉時代の土器・瓦、室町時代の土器・瓦、金銅製塔宝輪片などが出土した。方形高まり南隣12次調査では平安時代から鎌倉時代の整地層、江戸時代の道路状高まりなどを検出し、平安時代の土器、鎌倉・室町時代の瓦などが出土した。13次調査は12次調査2・3区と重なる調査区であり、鎌倉時代の整



図7 周辺調査位置図 (1 : 1500)

表1 周辺調査一覧表

次数	調査区	面積	調査期間	調査概要	文献
1次	1-A ~D	600㎡	1988.10.25 ~1989.04.03	室町時代の建物・廊・池・石組・溝・土坑、江戸時代の溝。 室町時代の土師器・陶器・輸入陶磁器。軒瓦・瓦。	1・6
2次	2-E ~V	722㎡	1989.07.04 ~1990.03.13	平安時代の築地・建物、鎌倉時代の石組、室町時代の建物・石組・石列・溝。 室町時代の土師器・輸入陶磁器、木製品、修羅。	2・6
3次	3-W1 ~W5	148㎡	1990.05.24 ~1990.07.31	平安時代の土師器皿埋納、室町時代の建物・池。 室町時代の軒瓦・瓦。	3・6
4次	4-X	57㎡	1992.11.25 ~1992.12.18	平安時代中期の土坑・遺物包含層、室町時代の溝、江戸時代の溝・土坑。 平安時代中期の土師器、室町時代の土師器、江戸時代の陶磁器・瓦。	4・6
5次	5-Y	200㎡	1994.08.23 ~1994.10.21	室町時代の建物・柵列、桃山時代の整地層、江戸時代の石組溝・集石・落込み。 室町時代の土師器・輸入陶磁器・石製香炉・軒瓦・瓦、桃山時代の土師器・施釉陶器・焼締陶器・瓦、江戸時代の土師器・陶磁器・輸入陶磁器・寛永通寶。	5・6
6次	6-1 ~9	42㎡	1997.11.07 ~1997.12.27	室町時代の井戸・池・整地層、江戸時代以降の整地層。鎌倉時代の土師器・瓦、 室町時代の土師器・瓦器・瓦、江戸時代の以降の土師器・陶器・磁器・瓦。	7
7次	7	115㎡	1999.03.03 ~1999.04.05	室町時代の礎石建物・溝・池、江戸時代の礎石建物・井戸・溝・暗渠。 室町時代の土師器・焼締陶器・輸入陶磁器・瓦・漆器、江戸時代の土師器・施釉陶器・輸入陶磁器・瓦。	8
8次	8	64㎡	2001.04.23 ~2001.05.24	室町時代の柱列・柱穴・溝・土坑・堀、江戸時代以降の肥溜め・薬研堀・土塁。 室町時代の土師器・輸入陶磁器・軒瓦・熨斗瓦・鉄製品、江戸時代以降の土師器・ 施釉陶器・瓦・塼。	9
9次	9	25㎡	2002.01.25 ~2002.02.05	室町時代の土坑、江戸時代以降の柱穴・溝・土蔵基礎・廃棄土坑。 室町時代の土師器・輸入陶磁器・軒瓦・丸瓦・平瓦・面戸瓦。	10
10次	10-1 ~7	98㎡	2003.08.18 ~2003.10.10	平安時代の柱穴、鎌倉時代の柱穴・集石・溝・整地層、室町時代の礎石建物・柱 穴・土坑・溝・整地層、江戸時代以降の溝。弥生土器、平安時代の土師器・須恵 器・黒色土器・灰釉陶器・輸入白磁・軒瓦、鎌倉時代の土師器・須恵器・輸入白磁 ・軒瓦・瓦、室町時代の土師器・須恵器・瓦器・焼締陶器・施釉陶器・輸入白磁・軒 瓦・瓦、江戸時代以降の土師器・瓦器・施釉陶器・磁器・軒瓦・瓦。	11
11次	11	300㎡	2005.08.03 ~2006.02.27	鎌倉時代の整地面、室町時代の礎石建物・柱穴・溝・集石・埋納土坑・整地面、 江戸時代の礎石建物・蹲踞・石列・溝・集石・土坑・土器埋納・化粧面・整地面。 平安時代の土師器・須恵器・黒色土器・緑釉陶器、鎌倉時代の土師器・軒瓦、室 町時代の土師器・瓦器・施釉陶器・焼締陶器・輸入陶磁器・瓦・軒瓦・鬼瓦・塼・銭 貨・金属製品、江戸時代の土師器・瓦器・施釉陶器・焼締陶器・磁器・輸入陶磁器 ・瓦・軒瓦・鬼瓦・塼・銭貨・金属製品・石製品・貝製品、近代の銭貨。	12
12次	12-1 ~8	64㎡	2012.12.17 ~2013.02.01	平安時代から室町時代の整地層、室町時代の井戸・土坑、江戸時代の道路状高 まり。平安時代の土師器・黒色土器・須恵器・緑釉陶器、室町時代の土師器・瓦器 ・軒丸瓦・軒平瓦・鬼瓦・線刻石・釘・壁土・炭、江戸時代の土師器・国産磁器・施 釉陶器・焼締陶器・ガラス・軒丸瓦・軒平瓦・軒棧瓦・道具瓦・寛永通寶。	13
13次	13	65㎡	2013.08.01 ~2013.09.07	平安時代の溝・土坑・ピット、鎌倉時代から室町時代の整地層、江戸時代の土坑。 平安時代の土師器・黒色土器・白色土器・須恵器・緑釉陶器・灰釉陶器・軒瓦・瓦 ・金属製品・壁土、鎌倉時代の土師器・瓦器・山茶碗・輸入磁器、室町時代の焼締 陶器・瓦器・軒瓦・瓦、江戸時代の瓦。	13
14次	14-1 ~7	447㎡	2015.04.01 ~2015.07.21	平安時代の土坑群、鎌倉時代の基壇状高まり・落込み、室町時代の高まり・池・瓦 窯。平安時代土師器・緑釉陶器、鎌倉時代土師器・瓦器・軒瓦・瓦、室町時代の 土師器・瓦質土器・施釉陶器・軒瓦・瓦・金属製品。	13
15次	15-1A ~5	352㎡	2016.06.01 ~2016.12.09	中世の整地層・礎石・溝・瓦溜・島状高まり・堤構築土・造成土。弥生土器、古墳時 代須恵器、平安時代の土器・瓦、中世の土器・瓦、近世土器・瓦・銭貨・釘。	—
16次	16-1 ~3	37㎡	2016.11.01 ~2016.11.21	鎌倉・室町時代の被熱層(被熱面)・造成土・整地層。鎌倉・室町時代の土師器・ 施釉陶器・瓦片、江戸時代の染付磁器・磁器・施釉陶器・瓦片・銭貨。	本 報 告

※『特別史跡・特別名勝 鹿苑寺(金閣寺)庭園』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015-9(文献13)の表1を
加筆・調整

地層、室町時代の整地層などを検出し、平安時代の土器・瓦、鎌倉時代の土器、室町時代の土器・瓦などが出土した。

文献（表1 周辺調査一覧表）

- 1 前田義明「特別史跡特別名勝鹿苑寺庭園」『昭和63年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1993年
- 2 前田義明「特別史跡特別名勝鹿苑寺庭園」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 3 前田義明「特別史跡特別名勝鹿苑寺庭園」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- 4 前田義明「特別史跡特別名勝鹿苑寺庭園」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- 5 前田義明「特別史跡特別名勝鹿苑寺庭園」『平成6年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年
- 6 前田義明ほか『特別史跡特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園 防災防犯施設工事に伴う発掘調査報告書』京都市埋蔵文化財研究所調査報告第15冊 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1997年
- 7 東 洋一「特別史跡特別名勝鹿苑寺庭園」『平成9年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1999年
- 8 南 孝雄「特別史跡特別名勝鹿苑寺庭園」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2000年
- 9 東 洋一「第8次調査」『特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-9 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 10 鈴木久男「第9次調査」『特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2001-9 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 11 高橋 潔『特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報2003-6 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2003年
- 12 小檜山一良『特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2005-17 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2006年
- 13 丸川義広ほか『特別史跡・特別名勝 鹿苑寺（金閣寺）庭園』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2015-9 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2016年

3. 遺 構

仮設通路予定範囲内で現遊歩道より高い部分の3箇所の調査を行った。1区は被熱層の被熱面と造成土、2区では造成土、3区では被熱層及び斜め堆積造成土と水平堆積造成土を検出した。

(1) 1区 (図8・9、図版1)

1区は方形高まりの南西斜面に位置する。三角形に近い不整形であり、東西約4.5m、南北約11mを測る。現地表は遊歩道より約0.8m高い。表土は厚さ約0.1mであり、直下から被熱面となる。

被熱層 表土直下で被熱面を検出した。その範囲は、東西約1.3m、南北約2.5m、厚さは5cm前後であり、赤化している。火を強く受けて硬くなった被熱面と考えられる。検出高は標高98.6m前後である。この層の下には、厚さ0.1m前後の整地層がある。

造成土 被熱面と整地層の下は水平堆積層である。幾層にも互層となり堆積し、方形高まり西斜面を形成している。工事掘削深まで確認したが、厚さは0.6m以上である。さらに下へ堆積していると思われる。これらの堆積層は、ある程度硬いが、締めりには強弱がみられる。この堆積層は方形高まりを形成する造成土であろう。室町時代前期の遺物が出土した。

(2) 2区 (図10、図版2)

2区は方形高まりの中央西寄りに位置し、周囲を遊歩道に囲まれた東西約4m、南北約5mの楕円形の高まりの北西部にあたる。仮設通路がかかる範囲は、東西約3m、南北約3.5mの半円形状で、現遊歩道より約0.9m高い。表土の厚さは0.05～0.4mである。

造成土 表土の下は厚さ0.1～0.4mの近世層と考えられ、その下が西から東へ下がる斜め堆積層である。工事掘削深まで確認したが、厚さは約0.4m以上である。さらに下へ堆積していると思われる。室町時代の遺物が出土した。

(3) 3区 (図11、図版2・3)

3区は方形高まりの東斜面北寄りに位置し、既に敷設されている仮設通路が切り通しとなっている南壁一帯である。南壁と断割範囲の大きさは、東西約9m、南北約2m、厚さ約2.5mである。表土の厚さは0.05～0.4mである。表土より下は厚さが約0.4mの中世から近世の土層と考えられる。その下には被熱層がある。

被熱層 赤化したやや締まった層がほぼ水平に堆積する。火災に伴うものの可能性がある。長さ

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	備 考
鎌倉・室町時代	1区：被熱層（被熱面）、整地層、造成土 2区：造成土 3区：被熱層、整地層1・2、造成土	2・3区で近世層が堆積する



図8 1区第1面平面図 (1:50)

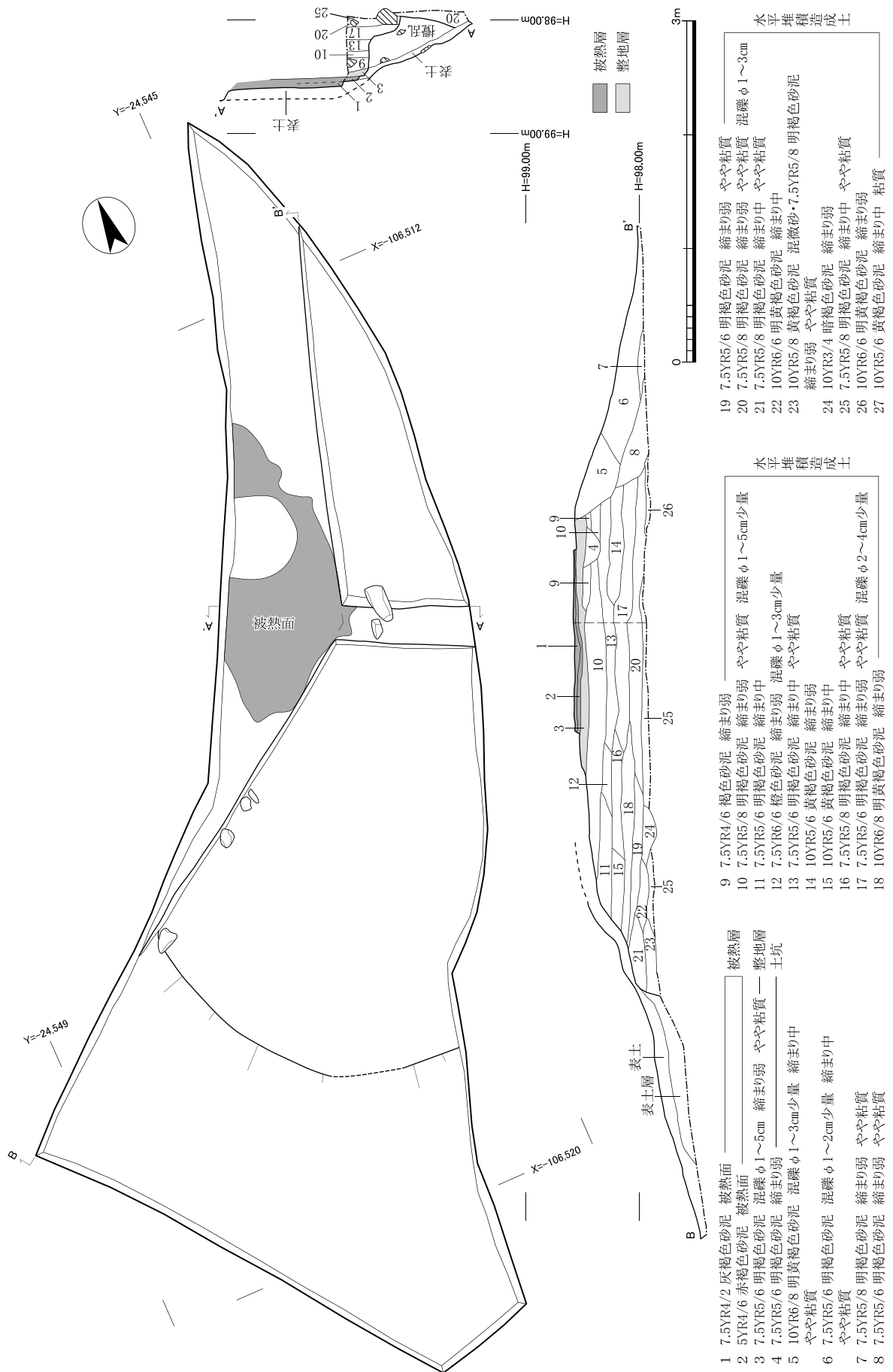
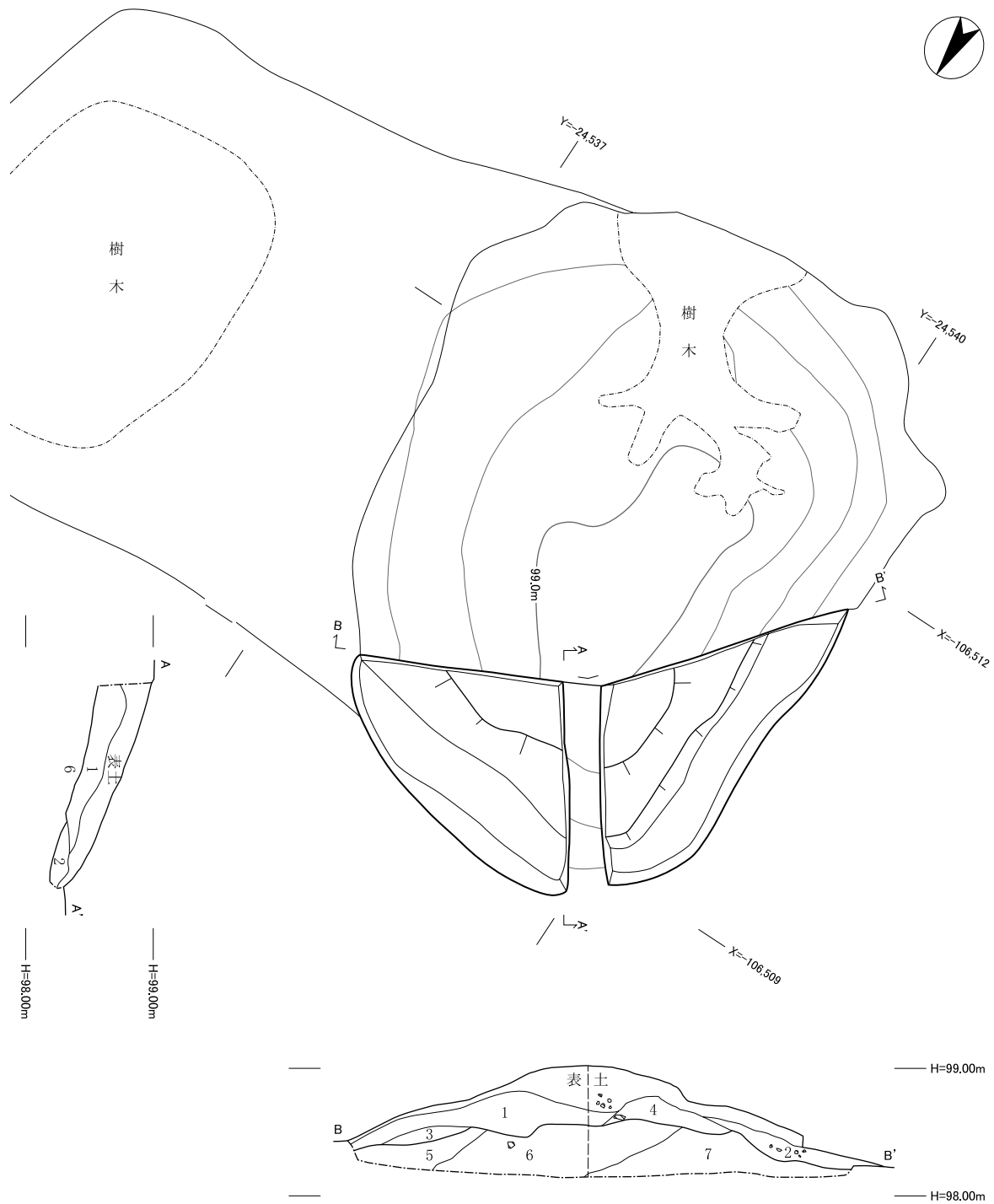
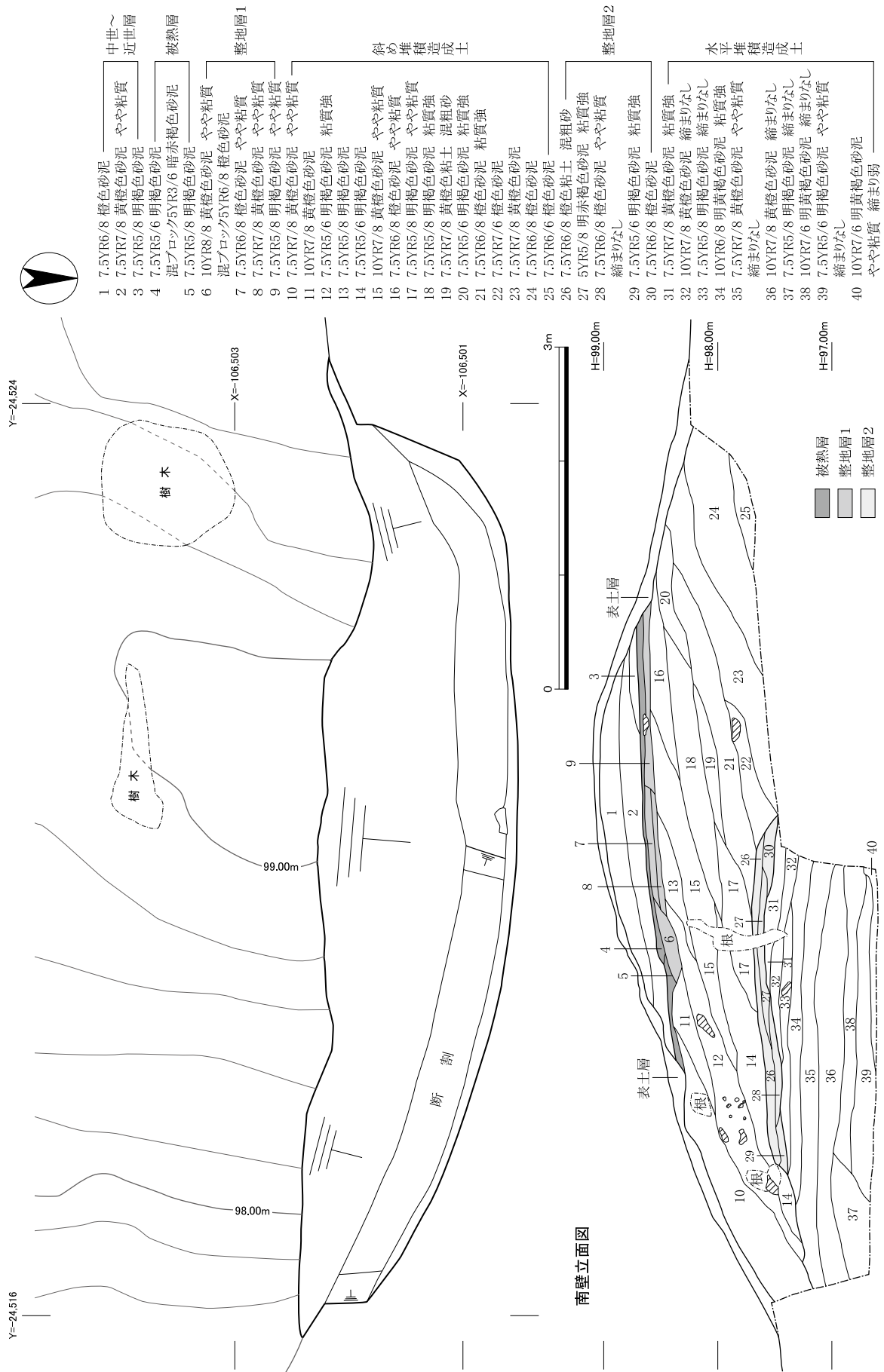


図9 1区第2面実測図 (1:50)



- | | | | | |
|---|----------------|--------|-----------------|-----|
| 1 | 10YR6/8 明黄褐色砂泥 | 締まり弱 | 混礫 ϕ 2~5cm | 近世層 |
| 2 | 10YR6/6 明黄褐色砂泥 | 締まり弱 | | |
| 3 | 10YR6/8 明黄褐色砂泥 | 締まり中 | 斜め堆積 | 造成土 |
| 4 | 10YR6/6 明黄褐色砂泥 | 締まり中 | | |
| 5 | 7.5YR5/8 明褐色砂泥 | 締まりやや強 | 造成土 | |
| 6 | 7.5YR6/8 橙色砂泥 | 締まりやや強 | | |
| 7 | 7.5YR5/6 明褐色砂泥 | 締まり強 | | |

図10 2区実測図 (1:50)



- | | | |
|----|--------------------|------|
| 1 | 7.5YR6/8 橙色砂泥 | やや粘質 |
| 2 | 7.5YR7/8 黄橙色砂泥 | やや粘質 |
| 3 | 7.5YR5/8 明褐色砂泥 | やや粘質 |
| 4 | 7.5YR5/6 明褐色砂泥 | やや粘質 |
| 5 | 混プロック5YR3/6 暗赤褐色砂泥 | やや粘質 |
| 6 | 10YR8/8 黄褐色砂泥 | やや粘質 |
| 7 | 7.5YR6/8 橙色砂泥 | やや粘質 |
| 8 | 7.5YR7/8 黄褐色砂泥 | やや粘質 |
| 9 | 7.5YR5/8 明褐色砂泥 | やや粘質 |
| 10 | 7.5YR7/8 黄褐色砂泥 | やや粘質 |
| 11 | 10YR7/8 黄褐色砂泥 | 粘質強 |
| 12 | 7.5YR5/6 明褐色砂泥 | 粘質強 |
| 13 | 7.5YR5/8 明褐色砂泥 | 粘質強 |
| 14 | 7.5YR5/6 明褐色砂泥 | やや粘質 |
| 15 | 10YR7/8 黄褐色砂泥 | やや粘質 |
| 16 | 7.5YR6/8 橙色砂泥 | やや粘質 |
| 17 | 7.5YR5/8 明褐色砂泥 | やや粘質 |
| 18 | 7.5YR5/8 明褐色砂泥 | 粘質強 |
| 19 | 7.5YR7/8 黄褐色粘土 | 混粗砂 |
| 20 | 7.5YR5/6 明褐色砂泥 | 粘質強 |
| 21 | 7.5YR6/8 橙色砂泥 | 粘質強 |
| 22 | 7.5YR7/6 橙色砂泥 | 粘質強 |
| 23 | 7.5YR7/8 黄褐色砂泥 | 粘質強 |
| 24 | 7.5YR6/8 橙色砂泥 | 粘質強 |
| 25 | 7.5YR6/6 橙色砂泥 | 粘質強 |
| 26 | 7.5YR6/8 橙色粘土 | 混粗砂 |
| 27 | 5YR5/8 明赤褐色砂泥 | 粘質強 |
| 28 | 7.5YR6/8 橙色砂泥 | やや粘質 |
| 29 | 7.5YR5/6 明褐色砂泥 | 粘質強 |
| 30 | 7.5YR6/8 橙色砂泥 | 粘質強 |
| 31 | 7.5YR7/8 黄褐色砂泥 | 粘質強 |
| 32 | 10YR7/8 黄褐色砂泥 | 粘質強 |
| 33 | 7.5YR5/8 明褐色砂泥 | 粘質強 |
| 34 | 10YR6/8 明黄褐色砂泥 | 粘質強 |
| 35 | 7.5YR7/8 黄褐色砂泥 | やや粘質 |
| 36 | 10YR7/8 黄褐色砂泥 | 粘質強 |
| 37 | 7.5YR5/8 明褐色砂泥 | 粘質強 |
| 38 | 10YR7/6 明黄褐色砂泥 | 粘質強 |
| 39 | 7.5YR5/6 明褐色砂泥 | やや粘質 |
| 40 | 10YR7/6 明黄褐色砂泥 | 粘質強 |

図11 3区実測図 (1:50)

が約4m、厚さは0.1m前後である。検出高は、標高98.4～98.7mである。その下にはほぼ水平の整地層1があり、さらにその下は、斜め堆積の造成土がある。

整地層1 被熱層の直下の層は、厚さ0.1m前後のほぼ水平でやや粘質の層である。整地層と考えられる。

整地層2 後述する斜め堆積造成土の直下で、粘質土と砂の混じるやや硬めの堆積層を検出した。厚さは0.1～0.2m、東西約3.1mである。幾層かに分層でき、整地層と考えられる。

造成土 3区で確認した造成土は、上部と下部に分かれる。上部は被熱層の下であり、西から東へ下がる斜め堆積の造成土である。厚さは0.7～1.0mであり、東西7.5m以上である。やや粘質の砂泥層が主体で、締まりは強くない。方形高まりを形成する造成土と考えられる。その下層は整地層2の下では、ほぼ水平堆積の造成土である。東西約4m、深さは約1mまで断ち割り、標高96.6m前後まで確認した。室町時代の遺物が出土した。斜め堆積の造成土と同様に、やや粘質の砂泥層が主体で、締まりは弱い。方形高まり構築以前の造成土の可能性¹⁾がある。

註

- 1) 方形高まりの南隣、13次調査において、標高95.3mで整地層を検出している。その時期は鎌倉時代である。その上に標高96.3m前後まで室町時代の整地層を検出している。

4. 遺 物

(1) 遺物の概要

整理箱コンテナで2箱出土した。鎌倉時代から室町時代の遺物が出土した。少量、小片であり、多くが造成土から出土した。江戸時代の遺物が少量、表土層や攪乱から出土した。これらの中から図化できる土器を2点図示した。

(2) 土器類 (図12)

土器2点は土師器皿である。1区造成土より出土した。1は残存率が約1/6である。底部は欠損、体部への屈曲部は薄い。体部は肥厚して斜め上方へ立ち上がり、口縁部はつまみ、断面は口縁端部が薄くなる。2は残存率が約1/3である。底部はいわゆるヘソがあり、体部は斜め上方へ立ち上がり、断面は口縁部へ薄くなる。口縁端部はつまみ、やや外反する。これら2点は京都¹⁾Ⅷ期に収まり、室町時代前期に比定できる。

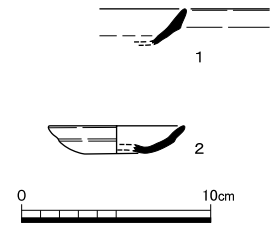


図12 出土土器実測図(1:4)

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク掲載遺物点数	Aランク未掲載箱数	B・Cランク箱数
鎌倉時代 ～室町時代	土師器、施釉陶器、瓦片		土師器2点		
江戸時代	施釉陶器、染付磁器、磁器、瓦片、 銭貨(時期不明)				
合計		3箱	2点(1箱)	2箱	0箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、掲載遺物を抽出したため、出土時より1箱多くなっている。

註

- 1) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年

750頃	840頃	930頃	1010頃	1080~90頃	1180頃	1270頃	1360頃	1440頃	1500頃	1580~90頃	1660頃	1740年代頃	1820年代頃	
I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI	XII	XIII	XIV	
古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新	古	中	新

5. まとめ

本調査で検出した主な遺構は、被熱層と造成土である。ここでは、これらと調査地の方形高まりの性格について述べる。

被熱層 1区と3区で検出した。1区のもは、赤化して非常に硬く締まる被熱面である。3区のもは赤化してやや締まる焼土面である。それらの検出高は、ほぼ同じ高さであることから、同じ火災によるものと思われる。方形高まりの頂部には平坦面が一定の高さ（標高98.5～98.6m）で広がっており、その上に被熱層が広がっていたと考えられる。火災の時期は、調査では確定できなかった。考えられる火災時期としては、鹿苑寺（金閣寺）境内の北東にあったといわれる北山七重大塔が雷により焼失した時¹⁾や応仁・文明の乱の時²⁾などが考えられる。応仁・文明の乱の火災とする痕跡は方形高まりの北西隣である12次調査6区で検出している。

造成土 1区では厚さ0.1m前後の層を幾層にも水平に積み重ねているが、2区の造成土は1区とは異なり、西から東への斜め堆積となっている。3区では上から順に、西から東への斜め堆積造成土、その下が整地層2、さらに水平堆積造成土が存在する。2区・3区の斜め堆積造成土は、方形高まりを構築した時のもので、室町時代のものであろう。水平堆積造成土は北山殿創建時の造成と思われる。方形高まりの南隣の13次調査（文献13・報告2015-9）で室町時代の整地層を確認した。その上面の標高は、95.3m前後である。今回の調査で確認した整地層2の標高は、97.6m前後である。その高低差から、水平堆積造成土は約1.3mの高まりがあったと推定できる。

方形高まりの性格 高まりは正方形に近く、頂部には平坦面があり、整地されていた。その上面で被熱層を検出したことから、何らかの建物基壇であった可能性が考えられる。高まり北隣の3次調査で池を埋める多量の室町時代の瓦（被熱の痕跡はない）が出土しており、周辺に建物が存在したことが考えられる。1区の造成土は、幾層もの水平堆積層であるが、2区は斜め堆積層である。これら各層は密な堆積ではなく、締まった土質でもないことから大重量を支える基壇とは考えにくい。基壇の上に建っていた建物が北山七重大塔であったかは今後の検証が必要である。

註

- 1) 『満濟准后日記』応永23年（1416）1月9日条「・・・亥初刻北山大塔為雷火焼失・・・」
なお大塔の建立は、『大乘院日記目録』応永11年（1404）4月3日「北山大塔立柱」
- 2) 『大乘院寺社雜事記』応仁元年（1467）6月22日条「・・・北山鹿園寺成陣・・・中略・・・小御堂先年炎上・・・中略・・・西方陣也」

圖 版



1 1区第1面全景（北東から）



2 1区被熱面検出状況（東から）



3 1区第2面全景（北東から）



1 2区造成土掘り下げ状況（北西から）



2 3区被熱面検出状況（北から）



3区南壁オルソ写真 (1 : 25)

報 告 書 抄 録

ふりがな	とくべつしせき・とくべつめいしょう ろくおんじ (きんかくじ) ていえん							
書名	特別史跡・特別名勝 鹿苑寺 (金閣寺) 庭園							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2016-13							
編著者名	布川豊治							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2017年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
とくべつしせき・とくべつ 特別史跡・特別 めいしょう ろくおんじ 名勝 鹿苑寺 (きんかくじ) ていえん (金閣寺) 庭園	きょうとしきたく 京都市北区 きんかくじちょう 金閣寺町 1番地	26100	A105	35度 02分 23秒	135度 43分 52秒	2016年11月 1日～2016 年11月21日	37㎡	通路 (迂回路) 仮設工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
特別史跡・特別 名勝 鹿苑寺 (金閣寺) 庭園	特別史跡 ・ 特別名勝	鎌倉・ 室町時代 江戸時代	被熱層(被熱面)、 整地層、造成土	土師器、施釉陶器、瓦 片 施釉陶器、染付磁器、 磁器、瓦片		方形高まりは、室 町時代に構築され た土壇であること が判明した。		

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2016-13

特別史跡・特別名勝
鹿苑寺（金閣寺）庭園

発行日 2017年3月31日

編集行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961